人は楽しむために生まれてきた

日本国民への提言 ㊼

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

たまごビル院長　石垣　邦彦

〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072（991）3398
FAX072（991）4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気のしくみを考える

「こころの中」の根本から教育

【日本の社会状況を観る】

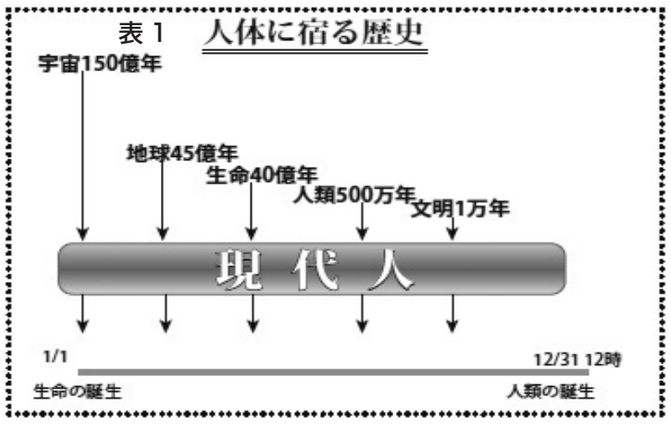
北イタリアの都市国家ベニス共和国の衰退期を生きた歴史家ジョバンニ・ボテロは、『偉大な国家を滅ぼすものは、けっして外面的な要因ではない。それは何よりも人間の「こころの中」、そしてその反映たる社会の風潮によって滅びるのである』と述べています。

それでは、滅びる原因である人間の「こころの中」はどこから生まれてくるのでしょうか。

何が原因で、滅びる原因である「こころの中」の異常が出てくるのでしょうか。

結論から申し上げると、豊かさを努力なく得られることで安逸で怠惰な生活が生まれ生きぬく上での危機感をなくし、その場の目先の利益のみにとらわれ行動してゆくことが多くなるからです。

しかし、それは日本の国民のほとんどがそういった状態ではないでしょうか。日本の国民の一人ひとりがすでに既得権者になってしまっているのではないでしょうか。その「こころの中」の反映が日本の風潮です。日本の危機です。



【日本の社会状況を変える必要がある】

宇宙・地球・生きもの・人類・文明（表1）を俯瞰してゆくと、私たち人類が作り出した文明が大きく発展し物質的に豊かな生活が生まれてきたことが理解できます。

しかし、一方で、あらゆる物が細分化され、全体を見失うことになってきています。

また、先人を含むあらゆる生きものと地球環境のおかげで成り立っている私たちの存在を忘れがちになってきています。

戦後といっても70年以上たちますが、食うや食わずの生活から、われわれの先人が豊かな日本を築いてくれました。お蔭でその豊かさの中で、現在のわたしたちが不自由なく暮らしていけることになっています。

しかし、食うに困らない飽食の時代が続くと、食べられるありがたさを忘れてしまうために、みなさんのおかげで生きられているということをついつい忘れてしまっている人々が多くなっていることは否めない事実です。そのありがたさを感じ取れないために物を粗末にすることが多くなってきました。生きるために頑張る必要がなくなったために気持ちがなえる人が多く、希望と生きがいをなくしている人々が多いのも事実です。

「衣食足りて礼節を知る」という諺がありますが、現在の日本では「衣食足りすぎて礼節を忘れる」ということになってしまっています。それらの反映が現在の日本の状況ではないでしょうか。

他の「生きもの」と同じく人間は、充分に食べられ、外敵によって命をあやうくされることもなく、寒さにふるえることもないというような豊かな「最高条件」で生活すると、かえって「生き生きと」生きぬくことはできないという事実があります。まさに現在の日本の状況です。

逆にそれらの生きぬく条件が、充分に満たされないで、生活のあらゆる面で我慢を強いられるとき、「生きもの」である人間は、かえってそこから活路を見出し、その状態を「最適条件」として生き生きと生きられる存在なのです。

努力せずに食べられ、なにげなく自由と平等を与えられているために、その価値が分からず、また自由と平等がもつ毒に気づかず自分自身の首を絞めつつあることに気づかなければなりません。その「こころの中」の反映としての日本の状況を変える必要があります。

そのためには、どうすればいいのでしょうか。

【『人は楽しむために生まれてきた』】

たまごビルの基本理念です。

宇宙の生成・地球の成り立ち・生きものの誕生・人類の出現（表1）を体感すると、人類の存在は奇跡の連続の中にあり「有り難い」状態の中のわたしたち人類の存在であると納得し腑に落ちます。人智の及ばないいろいろな条件が折り重なりあったことでわれわれ人類が存在することは、自然という全体が織りなす結果としての「有り難い」奇跡的な状態であることが分かります。

この「有り難い」状態を「ありがたい」と感謝して受け取ることが大事なことだと思います。

人生には、苦しみの方が多いでしょうが、この奇跡的な「有り難い」連続の中に存在する人類には、苦しい中にも楽しみを見出す方向に軸足を移すことが大事であると思います。

「人は楽しむために生まれてきた」という理念は、そういう経過をたどって生まれました。

「人は楽しむために生まれてきた」という社会をつくるための役割分担が仕事であると、わたしはとらえています。各分野から各分野の矛盾を抜本的に改革し、協力しつつ「人は楽しむために生まれてきた」という日本を作ろうではありませんか。

たまごビルでは、慢性疾患の患者主体の治療と予防を45年間おこなってきました。

慢性疾患における医療の矛盾を土台にして、人類はいかに生きるべきか、抜本的な提案をしてゆきたいと思います。

これからの人類にとって本当に必要なことはなにか。その本質を見極めてゆきたいと思います。

【人間とは、人生とは、生きるとは】

「生きもの」の特徴として、「生まれ・成長し・子孫を育て・老化し・死にゆく」変化する「いのち」の流れがあります。

その流れには、「いのち」をつなぐ役割があります。意識しようとしまいと、わたしたちは「いのち」をつなぐために生きています。

わたしは、この「いのち」の流れる「しくみ」がスムーズに運ぶ時に「からだ」にあらわれる特徴を発見しました。

その特徴とは、「上腹部がやわらかい」状態であり、その時「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」がととのうことを発見しました。

そしてこの特徴があると「元気で生きれ・当然、病気の予防となり・不幸に病となった場合は、的確な治療となり、復元力を失っている「からだ」には、現代医学的なリスクをともなう治療と併用し、その効果を最大限に引き上げ、生かすことができる・確かなケアーとなる・生き生きとした老化をなし・穏やかな死に至ることができる」ことを発見したのです。

上腹部をやわらかくする

上記の事実から、わたしは日本国民並びに全人類に

『「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部がやわらかい」状態を、医療のみならず生活そのものの柱とすること』を提案します。

なぜならば、一人ひとりの人間は、すべての「生きもの」と同じく、ヒトという「種」の「いのち」をつなぐ一つひとつの鎖の環（わ）という部分であり、その鎖の環の部分であるわたしたちが、大きな「いのち」のつながりに通じているからです。そこにわたしたちは大きな安心とやすらぎを得られるからです。その「いのち」のつながりに貢献できることで生きがいが生まれるからです。そのことによってご自分の人生を楽しめるからです。

人類の一人ひとりが全人類の継続的な繁栄のために、全人類の一人ひとりが「上腹部のやわらかさ」を身につけ人類の「いのち」のつなぎに貢献することができるからです。

保育園の運営を行うにあたって、日本の社会問題を深く認識することになりました。

まさに先に述べたように「最高条件」の豊かさを享受するあまり、日本人の「生きる力」が衰えてきているのです。

食べ物のない時代には、子どもに我慢、忍耐を強いる必要はありません。生活が豊かになった今だからこそ、厳しい、忍耐力を養う教育が必要です。人為的に苦労させなければならないのに、現代の教育現場では「個性の尊重」や「子どもを傷つけない」ゆとり教育で子どもを甘やかしています。これでは個性は育ちません。

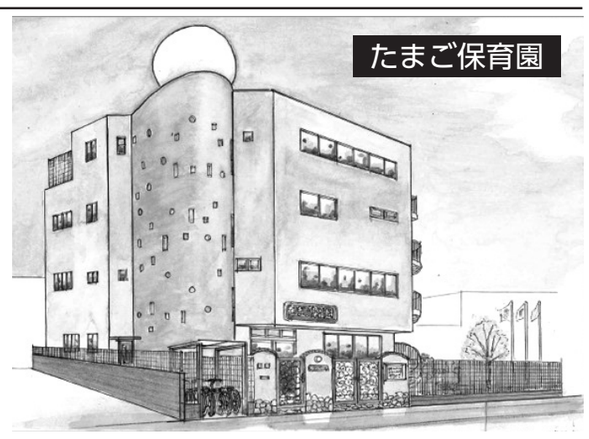
苦労を何も知らず、理想や人権の意識さえあれば世界はすべて自分の思う通りなってゆく。自分が食べられるから平和を願えば叶うという現実の社会ではありえないことを空想するのです。それが「こころの中」の反映たる日本の社会の風潮になっているのです。今現在ある豊かさに感謝することができないために生きる力が衰えています。なんとかしなければなりません。

しかし、現在では、家庭で礼儀作法・躾を行うことができない状態です。その意味で、たまごビルでは、たまご保育園・たまご学童教室の活動を通して「こころの中」の根本から教育をおこなってゆきます。園児・学童から保護者に、地域に、日本国民に伝えてゆきたいと願っています。

いばらの道が続くでしょうがやり続けてゆきたいと思います。皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。また、この主旨にご賛同される方は、ご寄付・ボランティア活動などよろしくお願い申し上げます。

注　2011年5月号　新潮45　曽野綾子・藤原正彦対談（P29の2段目右3行目～18行目までを参照）

ご支援・ご協力をお願いします



たまご保育園・学童教室で一貫教育

その本質的な「生きもの」の原理を現実に普及し、「人は楽しむために生まれてきた」という社会を実現する活動が必要です。その活動をたまご保育園（0～5歳）・たまご学童教室（6～12歳）で行ってゆきます。

【たまご保育園・学童教室での教育】

0～12歳までの「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を生かした一貫教育を行います。

たまご保育園園児の心得

①正しい生活習慣を身につけ元気な子どもになります。

②人に、物に、全ての環境に感謝できる子どもになります。

③自らの考えを持ち、自らを表現できる子どもになります。

たまご保育園の園児である私たちは自らの「からだ」と「こころ」をととのえ家庭・地域・日本・地球環境に貢献してゆきます。

この大きな目標をもって日々の生活に精進してゆきます。

この園児の心得を毎日聞くたびに、勇気をいただきます。

大阪万博については、この理念を柱にして「いのち輝く未来社会のデザイン」にすることを念じています。世界に普及することを願っています。

TAMAGO
たまご学童教室
申込受付中
大切な時期、遊んでいるだけではもったいない！
学習＋運動＋習い事
放課後や長期休暇にお子様をお預かりし、学習と運動にしっかりと取り組みます
英会話、プログラミング、書道、ピアノ、合気道、裁縫、料理なども学べます
平日：放課後～18:00（19:30まで延長可）
土曜：8:00～17:00
場所：たまごビル（JR八尾駅から徒歩3分）
学校へお迎え
※乳幼児・中学生以上の教室も受付中
夕食・お風呂
医師常駐
呼び出しなし
急な病気やケガでも安心
病児室
随時入園可
通常　年中無休
6:30～19:30
病児　月～金
8:00～18:00
生きる力を育む教育
内閣府所管
たまご保育園
国語 算数 理科 英語
挨拶 礼儀 作法
手ぶら通園
認可と同料金無償化対応
お問い合わせは TEL 072-923-1644
大阪府八尾市春日町1-4-13　たまご保育園